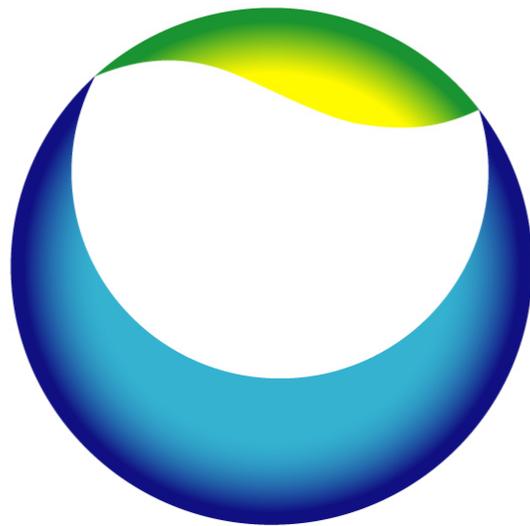


証券コード
4568

決算短信及び補足資料
(2008年3月期決算)



Daiichi-Sankyo

2008年5月13日

第一三共株式会社

<http://www.daiichisankyo.co.jp>



2008年3月期 決算補足資料 目次

1. 損益計算書推移	P1
2. 為替レート	P2
3. グローバル製品売上高	P2
4. 海外売上高	P2
5. セグメント別情報（事業別）	P3
6. セグメント別情報（所在地別）	P3
7. 主要経営財務指標	P4
8. 設備投資および減価償却費	P4
9. 単元株式の所有者別状況	P4
10. 主要会社の状況	P5~9
11. 連結貸借対照表	P10
12. 連結損益計算書	P11
13. 連結キャッシュ・フロー計算書	P12
14. 主要開発パイプラインの状況	P13~17

将来の見通しに関して

当社では、東京証券取引所に提出する収益予想に加えて、投資家や証券アナリストの皆様が自ら当社の業績に関する予想を立てられるよう、見通しに関するガイダンスを提供する場合があります。また、ご挨拶、講演、質疑応答、当社の発行する書面、ホームページ記載内容等には現在の計画、見通し、戦略などが含まれる場合があります。

何れの場合におきましても、歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづいております。従いまして、当社の業績、企業価値等を検討されるに当たりましては、これら見通しのみにも全面的に依拠されることは控えて頂けるようお願い致します。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)急速な技術革新が進む創薬分野において、タイムリーに研究・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

1.損益計算書推移

(単位：億円)

	2007年度実績									2008年度予想			
	上半期	前同比	第4 四半期	前同比	下半期	前同比	年度	対公表 (1月発表)	前同比	上半期	前同比	年度	前同比
売上高	4,437	-8.7%	1,843	-7.3%	4,364	-1.6%	8,801	41	-5.3%	4,000	-9.9%	8,400	-4.6%
売上原価	1,132		528		1,214		2,346	136		1,005		2,085	
売上原価率	25.5%		28.7%		27.8%		26.7%			25.1%		24.8%	
販管費	2,366		1,314		2,521		4,887	-63		2,495		5,015	
販管費率	53.3%		71.3%		57.8%		55.5%			62.4%		59.7%	
再掲)研究開発費	783		465		852		1,635	-80		850		1,690	
研究開発費率	17.6%		25.2%		19.5%		18.6%			21.3%		20.1%	
再掲)研究開発費以外の販管費	1,583		849		1,669		3,252	17		1,645		3,325	
営業利益	939	19.9%	1	-98.8%	629	8.6%	1,568	-32	15.0%	500	-46.8%	1,300	-17.1%
営業利益率	21.2%		0.0%		14.4%		17.8%			12.5%		15.5%	
営業外収益	87		48		83		170	30		60		110	
営業外費用	19		19		28		48	18		20		30	
経常利益	1,007	14.2%	30	-49.5%	684	7.0%	1,691	-19	11.2%	540	-46.4%	1,380	-18.4%
経常利益率	22.7%		1.6%		15.7%		19.2%			13.5%		16.4%	
特別利益	40		120		122		161	61		25		30	
特別損失	67		94		117		183	33		30		55	
税引前利益	980		56		689		1,669			535		1,355	
当期純利益	602	-9.9%	12	45.0%	374	220.8%	977	-23	24.3%	300	-50.2%	800	-18.1%
当期利益率	13.6%		0.7%		8.6%		11.1%			7.5%		9.5%	

〈決算期変更による影響除外後の医薬品事業*の推移〉

	2007年度実績									2008年度予想			
	上半期	前同比	第4 四半期	前同比	下半期	前同比	年度	対公表 (1月発表)	前同比	上半期	前同比	年度	前同比
売上高	4,132	4.4%	1,777	3.2%	4,208	5.8%	8,340	-115	5.1%	4,000	-3.2%	8,400	0.7%
売上原価	950		476		1,081		2,030	3		1,005		2,085	
売上原価率	23.0%		26.8%		25.7%		24.3%			25.1%		24.8%	
販管費	2,255		1,308		2,503		4,758	-81		2,495		5,015	
販管費率	54.6%		73.6%		59.5%		57.1%			62.4%		59.7%	
再掲)研究開発費	775		464		849		1,624	-83		850		1,690	
研究開発費率	18.7%		26.1%		20.2%		19.5%			21.3%		20.1%	
再掲)研究開発費以外の販管費	1,480		844		1,654		3,135	3		1,645		3,325	
営業利益	927	42.7%	-7	-	624	13.2%	1,551	-37	29.2%	500	-46.1%	1,300	-16.2%
営業利益率	22.4%		-0.4%		14.8%		18.6%			12.5%		15.5%	
営業外収益	84		48		82		166	29		60		110	
営業外費用	19		18		28		47	17		20		30	
経常利益	992	35.4%	23	-47.7%	678	10.9%	1,671	-25	24.2%	540	-45.6%	1,380	-17.4%
経常利益率	24.0%		1.3%		16.1%		20.0%			13.5%		16.4%	
特別利益	23		50		51		74	-9		25		30	
特別損失	66		79		102		169	19		30		55	
税引前利益	949		-6		627		1,576			535		1,355	
当期純利益	573	25.0%	-9	-	378	-	951	-19	167.7%	300	-47.6%	800	-15.9%
当期利益率	13.9%		-0.5%		9.0%		11.4%			7.5%		9.5%	

*医薬品事業については、前年度との比較を容易にするために、継続対象としている事業について記載しております。従って、決算上の医薬品事業とは異なります。

【特記事項】

2007年度実績（2006年度との比較）

【プラス要因】

2007年度は、欧州子会社の第一三共ヨーロッパ GmbH (DSE) について決算期の変更（12月期→3月期決算）を行っており、2007年1月 - 2008年3月の15ヶ月分の業績を計上しております。
その影響額（2007年1月-3月）は、売上高141億円、営業利益18億円、経常利益21億円、純利益20億円であります。

【マイナス要因】

2006年度は、米国子会社2社について決算期の変更（12月期→3月期決算）を行っており、2006年1月-2007年3月の15ヶ月分の業績を計上しております。
その影響額（2006年1月-3月）は、売上高315億円、営業利益90億円、経常利益105億円、純利益58億円であります。

当社は医薬品事業への集中を図るため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めてきました。2006年度には、連結子会社のうち、和光堂（株）、富士製粉（株）、第一化学薬品（株）、（株）第一ラジオアイソトープ研究所、三共アグロ（株）、目黒化工（株）等が連結除外となりました。
2007年度上半期には第一ファインケミカル（株）、埼玉第一製薬（株）等、下半期には日本乳化剤（株）、中日合成化学等が連結除外となっております。

2008年度業績予想（2007年度との比較）

【マイナス要因】

2007年度に非医薬品事業のグループ数社が連結除外となりました。
2007年度は欧州子会社の決算期変更によりDSEについては15ヶ月分の業績を計上しました。
為替レートは1ドル100円、1ユーロ155円を前提としており、2007年度の実勢レートと比較すると約340億円の減収要因となっております。
2008年度は国内における薬価改定が行われております。

2.為替レート

	2007年度実績			2007年度為替の影響 当初予算レートに対して、 通期で1ドル約1円の円 高、1ユーロ約20円の円安 となったため、売上高119 億円、営業利益17億円の 増加要因となりました。	2008年度予想		
	当初予算レート (07年5月)	上半期	年度		上半期	年度	1円の為替変動による 業績へのインパクト
円/USD (期中平均)	115.0	119.3	114.3		100.0	100.0	売上高 約21億円 営業利益 約3億円
円/EUR (期中平均)	140.0	160.4	160.5		155.0	155.0	売上高 約5億円 営業利益 軽微

3.グローバル製品売上高

	2007年度実績							除) 決算期 変更の影響		2008年度予想				
	上半期	前同比	第4四半期	下半期	前同比	年度	対公表 (1月発表)	前同比	上半期 前同比	年度 前同比	上半期	前同比	年度	前同比
オルメサルタン 【高血圧症治療剤】 (地域)	966	15.1%	449	989	29.6%	1,956	-64	22.0%	32.1%	30.7%	1,000	3.5%	2,140	9.4%
オルメテック 日本	264	36.0%	112	288	26.2%	552	-58	30.7%			330	25.0%	680	23.2%
ベニカー/ ベニカーHCT * 米国	445	-16.5%	193	434	10.0%	879	-9	-5.3%	18.1%	13.9%	410	-7.8%	840	-4.4%
エイソール 米国	-	-	7	25	-	25	-7	-	-	-	30	-	85	233.7%
オルメテック/ オルメテックプラス ** 欧州	223	121.6%	112	195	56.7%	418	-2	85.6%	58.0%	57.3%	190	-14.7%	420	0.4%
輸出/アジア・中南米子会社等	35	189.6%	25	46	188.9%	81	11	189.2%			40	14.2%	115	41.4%
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】 (地域)	529	8.4%	237	558	0.9%	1,087	-13	4.4%			500	-5.5%	1,040	-4.4%
クラビット 日本	221	5.1%	98	253	-1.7%	474	-36	1.4%			220	-0.4%	470	-0.8%
輸出等	177	8.6%	66	163	4.8%	340	18	6.8%			160	-9.6%	320	-5.9%
特許料	93	8.6%	54	102	-1.9%	195	0	2.8%			80	-13.7%	170	-12.9%
アジア子会社	39	29.5%	19	39	11.1%	78	5	19.5%			40	3.0%	80	2.2%
プラバスタチン 【高コレステロール血症治療剤】 (地域)	403	-22.4%	145	362	-13.0%	765	-25	-18.3%	-25.5%	-20.0%	330	-18.1%	625	-18.3%
メハロチン 日本	317	-9.0%	116	299	-9.3%	616	-24	-9.1%			280	-11.6%	530	-13.9%
輸出	29	-78.5%	7	21	-60.6%	50	-8	-73.4%			10	-65.4%	20	-60.1%
欧州子会社 **	41	26.4%	13	26	-6.2%	67	5	11.5%	-22.7%	-15.2%	25	-39.4%	45	-32.7%
アジア・中南米子会社	16	237.2%	8	16	218.2%	32	2	227.5%			15	-6.6%	30	-6.2%

* 米国オルメサルタン（製品名：ベニカー）の2006年度実績は、決算期の変更により15ヶ月分（2006年1月-2007年3月）を計上しております。

なお、2006年1月-3月の実績は、156億円（\$135 mil）であります。

** 欧州オルメサルタン（製品名：オルメテック）、プラバスタチンの2007年度実績は、決算期の変更により15ヶ月分（2007年1月-2008年3月）を計上しております。

なお、2007年1月-3月の実績は、オルメサルタン64億円（€40 mil）、プラバスタチン16億円（€10 mil）であります。

4. 海外売上高

	2007年度実績							2008年度予想				
	上半期	前同比	第4四半期	下半期	前同比	年度	対公表 (1月発表)	前同比	上半期	前同比	年度	前同比
海外売上高	1,885	-3.2%	778	1,701	5.0%	3,586	66	0.5%	1,590	-15.6%	3,360	-6.3%
対売上高比率	42.5%		42.2%	39.0%		40.7%	+0.6%		39.8%		40.0%	
北米	1,112	-17.6%	465	1,087	1.7%	2,199	-1	-9.1%	960	-13.7%	2,040	-7.2%
欧州 *	567	27.3%	223	417	5.0%	985	5	16.8%	460	-18.9%	960	-2.5%
アジア/中南米他	206	36.1%	90	197	27.7%	402	62	31.9%	170	-17.3%	360	-10.5%

* 第一三共ヨーロッパ GmbHの2007年度実績は、決算期の変更（12月期→3月期決算）により15ヶ月分（2007年1月-2008年3月）を計上しております。

なお、2007年1月-3月の実績は、売上高141億円であります。

5.セグメント別情報（事業別）

（単位：億円）

	2007年度実績							
	上半期	前同比	第4 四半期	前同比	下半期	前同比	年度	前同比
連結売上高	4,437	-8.7%	1,843	-7.3%	4,364	-1.6%	8,801	-5.3%
医薬品事業	4,240	-3.9%	1,756	3.1%	4,168	5.3%	8,408	0.4%
国内医療用医薬品	2,145	-0.3%	870	1.8%	2,228	2.1%	4,373	0.9%
海外医療用医薬品*	1,847	-0.3%	783	3.2%	1,678	9.7%	3,525	4.3%
ヘルスケア	244	-0.6%	108	30.6%	259	10.8%	503	4.9%
その他事業	197	-55.7%	87	-69.6%	197	-59.0%	393	-57.4%
連結営業利益	939	19.9%	1	-98.8%	629	8.6%	1,568	15.0%
医薬品事業	942	24.1%	-11	-140.5%	615	10.8%	1,556	18.5%
その他事業	-4	-	11	-	14	-	10	-

*2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH（DSE）の決算期を変更（12月期→3月期決算）したため、15ヶ月決算となっております。
2007年度上半期は、2007年1月～2007年9月の9ヶ月決算となっており、その影響額（2007年1月-3月）は、売上高141億円、営業利益18億円であります。

6.セグメント別情報（所在地別）

（単位：億円）

	2007年度実績							
	上半期	前同比	第4 四半期	前同比	下半期	前同比	年度	構成比 前同比
連結売上高	4,437	-8.7%	1,843	-7.3%	4,364	-1.6%	8,801	100.0% -5.3%
日本	2,954	-13.6%	1,230	-11.1%	3,028	-7.1%	5,981	68.0% -10.4%
北米	897	-17.4%	372	-11.4%	883	6.5%	1,780	20.2% -7.1%
欧州*	453	66.0%	182	28.2%	326	25.2%	780	8.9% 46.1%
アジア/中南米 他	133	66.5%	59	36.3%	128	44.7%	261	3.0% 55.0%
連結営業利益	939	19.9%	1	-98.8%	629	8.6%	1,568	15.0%
日本	694		-95		377		1,071	
北米	225		26		151		376	
欧州*	34		59		73		107	
アジア/中南米 他	13		4		12		25	

*2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH（DSE）の決算期を変更（12月期→3月期決算）したため、15ヶ月決算となっております。
2007年度上半期は、2007年1月～2007年9月の9ヶ月決算となっており、その影響額（2007年1月-3月）は、売上高141億円、営業利益18億円であります。

7.主要経営財務指標

	2006年度実績		2007年度実績		2008年度予想	
	上半期	年度	上半期	年度	上半期	年度
経営指標						
配当性向（連結）	32.7%	55.7%	42.1%	51.7%	(95.9%)	(71.9%)
純資産配当率（DOE）	-	3.5%	-	4.0%	-	-
1株当たり利益（EPS）	91.7円	107.7円	83.2円	135.3円	(41.7円)	(111.3円)
1株当たり配当金	30.0円	60.0円	35.0円	70.0円	40.0円	80.0円
配当金総額	219億円	437億円	252億円	503億円	-	-
自己資本当期純利益率（ROE）	-	6.3%	-	7.8%	-	-
1株当たり純資産（BPS）	1,756.3円	1,740.2円	1,762.0円	1,730.1円	-	-
自己資本比率	78.3%	77.5%	83.6%	83.6%	-	-
自己株式取得（株式数）	25千株	49千株	10,020千株	10,035千株	-	-
自己株式取得	1億円	2億円	334億円	334億円	-	-
期末発行済株式総数*	729百万株	729百万株	719百万株	719百万株	-	-
期末株価（終値）	3,350円	3,610円	3,450円	2,945円	-	-
時価総額	24,422億円	26,317億円	24,805億円	21,174億円	-	-
財務指標						
総資産	16,345億円	16,368億円	15,158億円	14,879億円		
流動資産	9,749億円	10,158億円	9,449億円	9,265億円		
有利子負債	73億円	101億円	59億円	1億円		
自己資本	12,804億円	12,687億円	12,668億円	12,439億円		
営業CF	697億円	1,064億円	-68億円	667億円		
投資CF	-327億円	453億円	56億円	-494億円		
財務CF	-232億円	-408億円	-595億円	-829億円		
フリーキャッシュフロー**	370億円	1,517億円	-12億円	173億円		
現金および現金同等物期末残高	4,158億円	5,132億円	4,539億円	4,443億円		
手元流動性 (現金+有価証券+投資有価証券他)	6,155億円	7,077億円	6,526億円	6,655億円		
その他						
連結子会社数	54社	54社	46社	43社		
連結要員数	18,604名	15,358名	15,655名	15,349名		
（再掲）国内要員数	13,678名	10,379名	9,635名	9,048名		
海外要員数	4,926名	4,979名	6,020名	6,301名		

*自己株式を除く

**営業CF+投資CFで算出しております

8.設備投資および減価償却費

(億円)

	2006年度実績		2007年度実績		2008年度予想
	上半期	年度	上半期	年度	年度
減価償却費	190	399	188	387	385
設備投資（工事ベース）	135	315	128	211	180

9.単元株式の所有者別状況

	2007年3月末			2007年9月末			2008年3月末		
	株主数 (名)	所有株式数 (百万株)	構成比	株主数 (名)	所有株式数 (百万株)	構成比	株主数 (名)	所有株式数 (百万株)	構成比
政府及び地方公共団体	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
金融機関	186	347	47.4%	192	343	46.7%	187	350	47.8%
金融商品取引業者	58	12	1.8%	65	17	2.4%	45	19	2.7%
その他の法人	647	49	6.7%	653	44	6.0%	673	44	6.1%
外国法人等	638	234	31.9%	614	221	30.2%	653	212	29.0%
個人・その他	52,290	89	12.2%	58,079	91	12.5%	56,944	89	12.2%
自己株式	1	0	0.0%	1	16	2.2%	1	16	2.2%
合計	53,821	733	100.0%	59,605	733	100.0%	58,504	733	100.0%

10.主要会社の状況

10-1.第一三共単体

1) 国内医療用医薬品売上高

	2007年度実績					2008年度予想				備考 (2006年度⇒2007年度の増減)
	下半年	前同比	年度	対公表 (1月発表)	前同比	上半期	前同比	年度	前同比	
国内医療用医薬品合計	2,161	0.9%	4,271	-159	1.6%	2,000	-5.2%	4,200	-1.7%	
循環器関連疾患領域	1,202	0.8%	2,425	-	2.6%	1,220	-0.2%	2,450	1.0%	
オルメテック 【高血圧症治療剤】	288	26.2%	552	-58	30.7%	330	25.0%	680	23.2%	降圧効果の強さ、抗炎症等による血管保護作用が評価され、新規患者数ならびに他剤との併用処方が拡大
カルブロック 【高血圧症治療剤】	54	15.5%	102	-13	16.3%	70	44.4%	140	37.1%	腎保護作用が評価され、CKD（慢性腎臓病）合併高血圧患者に対するアンジオテンシンⅡ阻害剤との併用処方が拡大
アーチスト 【高血圧症治療剤】	106	8.9%	211	-9	9.6%	110	4.2%	220	4.1%	市場が縮小する中において、慢性心不全に唯一適応のあるβ遮断薬として心臓疾患を中心に処方が拡大し、同一薬効内トップシェアを堅持
メパロチン 【高血圧症治療剤】	299	-9.3%	616	-24	-9.1%	280	-11.6%	530	-13.9%	MEGA Studyの結果がガイドラインに反映され新規患者への処方機会増加したものの、後発品の処方拡大、競合品の攻勢により減収
クレメジン 【慢性腎不全用剤】	62	1.8%	124	-6	1.7%	60	-2.6%	140	13.0%	CKD診療ガイドにおいて重度患者に対する終吸着薬の処方が推奨されたことが追風となり新規患者数が増加
ハンブ 【急性心不全剤】	53	5.3%	98	-2	6.4%	50	11.0%	100	2.3%	改訂急性心不全ガイドラインにおける本剤の位置づけが向上し、急性心不全治療の第一選択薬として伸張
リバロ 【高血圧症治療剤】	28	5.9%	55	-5	6.3%	30	14.1%	80	46.6%	スタチンのバイオアミメーターとして脂質異常症における適切な薬物治療提案を推進し、採用院数ならびに処方数が増加
サンリズム 【不整脈治療剤】	59	1.5%	121	1	3.0%	70	13.6%	120	-0.7%	心房細動停止と再発予防効果の浸透により心房細動患者の処方が拡大
ファスティック 【血糖降下剤】	26	-4.9%	52	2	-4.0%	30	14.4%	60	15.8%	前年を下回るもグリニド製剤市場においてトップシェアを堅持
感染症/骨・関節/免疫・アレルギー/泌尿器	736	0.2%	1,379	-	1.0%	640	-0.4%	1,360	-1.4%	
クラビット 【合成抗菌剤】	253	-1.7%	474	-36	1.4%	220	-0.4%	470	-0.8%	競合他社よりニューキノロンの新製品が発売されたが、クラビットの高い安全性と強い抗菌力の位置づけは安定し、処方は拡大
ロキソニン 【消炎鎮痛解熱剤】	172	7.7%	336	-14	8.7%	190	15.9%	390	16.0%	高いブランド力と優れた製品性によって、内服・外用ともに増収
モービック 【消炎鎮痛剤】	49	-7.5%	102	-13	-4.0%	60	11.4%	110	7.3%	競合他社より発売されたCOX-2阻害剤の影響を受け減収
ユリーフ 【排尿障害改善剤】	31	155.3%	54	-21	139.3%	40	72.0%	90	66.2%	投薬期間制限解除を機に院数と処方数が増加。2007年度後半には薬効内第3位のシェアに到達
ジルテック 【抗アレルギー剤】	63	-8.4%	108	8	-9.5%	40	-11.5%	90	-16.9%	29社より後発品が発売され減収
造影剤/癌/消化器	284	-7.8%	586	-	-6.4%	260	-14.1%	520	-11.3%	
オムニパーク 【造影剤】	152	0.4%	312	-8	-1.2%	140	-12.0%	280	-10.1%	造影剤市場構造的な状況下、包括医療による後発品処方の拡大などにより減収
トボテシン注 【抗悪性腫瘍剤】	31	10.0%	62	2	13.8%	30	-3.3%	60	-2.8%	治療ステージ毎に推奨される薬物治療メニューに本剤が組み込まれ処方数は拡大

2) 輸出売上高*

	2007年度実績					2008年度予想				備考 (2006年度⇒2007年度の増減)
	下半年	前同比	年度	対公表 (1月発表)	前同比	上半期	前同比	年度	前同比	
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	160	2.3%	335	-	5.6%	160	-8.2%	320	-4.3%	欧米を中心に現地消化が堅調に推移し、輸出も拡大
ブラバスタチン 【高血圧症治療剤】	21	-60.6%	50	-	-73.4%	10	-65.4%	20	-60.1%	全世界における特許満了に伴い減少

* 連結、実勢レートベースの輸出高とし、過去に遡って再集計しております。

なお、従来（単体、社内レート）ベースでの2007年度実績は、レボフロキサシン 339億円、ブラバスタチン 64億円となっております。

3) 人員の推移

	2007年度実績	
	9月末	3月末
第一三共単体人員数	5,964	5,925
営業担当者数 (MR)	2,400	2,400

10-2.第一三共ヘルスケア

1) ヘルスケア製品売上高

(単位：億円)

	2007年度実績					2008年度予想				備考 (2006年度⇒2007年度の増減)
	下半期	前同比	年度	対公表 (1月発表)	前同比	上半期	前同比	年度	前同比	
ヘルスケア売上高合計	259	10.8%	503	-17	4.9%	260	6.4%	540	7.3%	
ルル類	52	9.7%	100	-7	-0.5%	50	3.5%	103	3.2%	売上は横ばいだったが、10月新発売の『新ルルAゴールド細粒』の寄与、主力品『新ルルA錠』の好調な推移により店頭販売は順調に推移。
ガスター10	18	-5.8%	35	-2	-3.0%	17	0.3%	38	9.1%	売上は僅かに減少したものの、水なしでも服用できる『ガスター10S錠』の定着などにより店頭販売は好調に推移。
新三共胃腸薬類	21	41.5%	35	2	17.5%	16	20.1%	35	0.8%	胃だけでなく腸にも効くコンセプトの新製品『新三共胃腸薬プラス』上市により売上増加。
パテックス類	12	49.5%	30	-2	56.6%	15	-18.4%	30	0.1%	近年伸長が著しいフェルビナク市場に『パテックスフェルビナク』シリーズ(5・35・シップ)を投入したことにより、大幅増収に貢献。
トランシーノ	12	-	26	-8	-	20	40.1%	50	91.5%	大型化が期待される新効能医薬品として9月に発売後、肝斑(かんぱん)の啓発活動などにより店頭での新市場創出に成功。売上を順調に伸ばしている。

2) 人員の推移

	2007年度実績	
	9月末	3月末
第一三共ヘルスケア人員数	394	396
営業担当者数(MR)	150	150

10-3.第一三共Inc. (米国)

1) 主要製品売上高

	(単位：億円)								
	2007年度実績				2008年度予想				
	下半期	前同比	年度	対公表 (1月発表)	前同比	上半期	前同比	年度	前同比
第一三共Inc. (DSI)	618	8.7%	1,269	-41	-2.7%	590	-9.4%	1,290	1.7%
mil USD	565	17.7%	1,110	-11	-0.4%	590	8.1%	1,290	16.2%
ベニカー/ベニカーHCT	434	10.0%	879	-9	-5.3%	410	-7.8%	840	-4.4%
mil USD 【高血圧症治療剤】	396	19.0%	769	13	-3.0%	410	10.0%	840	9.2%
エイゾール 【高血圧症治療剤】	25	-	25	-7	-	30	-	85	233.7%
mil USD	22	-	22	-6	-	30	-	85	281.3%
ウェルコール 【高血圧症治療剤 /2型糖尿病治療剤】	113	12.3%	227	-13	-2.1%	115	0.9%	250	10.0%
mil USD	103	21.3%	199	-6	0.2%	115	20.4%	250	25.7%

* DSI、ベニカー/ベニカーHCT、ウェルコールの2006年度実績は、決算期の変更により15ヶ月分（2006年1月-2007年3月）を計上しております。
なお、2006年1月-3月の実績はそれぞれ、195億円（\$169 mil）、156億円（\$135 mil）、39億円（\$33 mil）であります。

2) 人員の推移

	2007年度実績	
	9月末	3月末
第一三共Inc.人員数	2,173	2,446
営業担当者数 (MR)	1,350	1,550

10-4.ルイトポルド ファーマシューティカルズ Inc. (米国)

1) 主要製品売上高

	(単位：億円)								
	2007年度実績				2008年度予想				
	下半期	前同比	年度	対公表 (1月発表)	前同比	上半期	前同比	年度	前同比
ルイトポルド (LPI)	265	1.5%	511	41	-16.3%	200	-18.7%	400	-21.7%
mil USD	241	9.3%	447	44	-14.3%	200	-3.0%	400	-10.5%
ヴェノファー 【貧血治療剤】	163	-4.5%	311	26	-17.6%	115	-22.1%	230	-26.0%
mil USD	148	2.7%	272	27	-15.6%	115	-7.1%	230	-15.4%

* LPI、ヴェノファーの2006年度実績は、決算期の変更により15ヶ月分（2006年1月-2007年3月）を計上しております。
なお、2006年1月-3月の実績はそれぞれ、120億円（\$103 mil）、68億円（\$59 mil）であります。

2) 人員の推移

	2007年度実績	
	9月末	3月末
ルイトポルド社人員数	472	498
営業担当者数 (MR)	90	90

10-5.第一三共ヨーロッパ GmbH (欧州)

1) 主要製品売上高

	(単位：億円)								
	2007年度実績				2008年度予想				
	下半期	前同比	年度	対公表 (1月発表)	前同比	上半期	前同比	年度	前同比
第一三共ヨーロッパ GmbH (DSE)	327	29.8%	780	10	51.0%	370	-18.3%	790	1.3%
mil EUR	203	21.6%	486	-2	37.5%	240	-15.1%	510	5.0%
オルメテック/オルメテックプラス	195	56.7%	418	-2	85.6%	190	-14.7%	420	0.4%
mil EUR 【高血圧症治療剤】	122	45.7%	261	-6	69.0%	125	-10.0%	270	3.6%
メハロチン 【高血圧症治療剤】	26	-6.2%	67	5	11.5%	25	-39.4%	45	-32.7%
mil EUR	16	-11.8%	42	2	1.5%	16	-37.8%	30	-28.0%
エビスタ 【骨粗鬆症治療剤】	27	56.7%	52	-	87.1%	75	191.8%	150	186.0%
mil EUR	17	45.0%	33	-	70.4%	48	199.5%	96	193.8%

* DSE、オルメテック/オルメテックプラス、メハロチン、エビスタの2007年度実績は、決算期の変更により15ヶ月分（2007年1月-2008年3月）を計上しております。
なお、2007年1月-3月の実績はそれぞれ、141億円（€89 mil）、64億円（€40 mil）、16億円（€10 mil）、10億円（€6 mil）であります。

2) 人員の推移

	2007年度実績	
	9月末	3月末
第一三共ヨーロッパ GmbH 人員数	1,723	1,776
営業担当者数 (MR)	830	830

10-3.第一三共Inc. (米国) <2006年度決算期変更による影響除外後>

1) 主要製品売上高

	(単位: 億円)										備考 (2006年度⇒2007年度の増減)
	2007年度実績					2008年度予想					
	下半年	前同比	年度	対公表 (1月発表)	前同比	上半期	前同比	年度	前同比		
第一三共Inc. (DSI)	618	8.7%	1,269	-41	14.4%	590	-9.4%	1,290	1.7%		
mil USD	565	17.7%	1,110	-11	17.4%	590	8.1%	1,290	16.2%		
ベニカー/ベニカーHCT	434	10.0%	879	-9	13.9%	410	-7.8%	840	-4.4%	決算期変更の影響を除外した実質比較では+108億円(+111mil USD)。プロモーションの積極展開、製品特性の浸透等により市場拡大を上回る成長持続。	
mil USD 【高血圧症治療剤】	396	19.0%	769	13	16.9%	410	10.0%	840	9.2%		
エイソール 【高血圧症治療剤】	25	-	25	-7	-	30	-	85	233.7%	2007年10月、強化した営業体制により円滑に販促活動開始。一方でアムロジビンの後発品を含む競合品との競争が激しく、CCB+ARB合剤のマーケット自体の構築がやや遅延。	
mil USD	22	-	22	-6	-	30	-	85	281.3%		
ウェルコール 【高血圧症治療剤 /2型糖尿病治療剤】	113	12.3%	227	-13	17.8%	115	0.9%	250	10.0%	決算期変更の影響を除外した実質比較では+34億円(+34mil USD)。プロモーション数の増加、さらに2008年1月の2型糖尿病効能追加により増収。	
mil USD	103	21.3%	199	-6	20.8%	115	20.4%	250	25.7%		

10-4.ルイトポルド ファーマシューティカルズ Inc. (米国) <2006年度決算期変更による影響除外後>

1) 主要製品売上高

	(単位: 億円)										備考 (2006年度⇒2007年度の増減)
	2007年度実績					2008年度予想					
	下半年	前同比	年度	対公表 (1月発表)	前同比	上半期	前同比	年度	前同比		
ルイトポルド (LPI)	265	1.5%	511	41	4.1%	200	-18.7%	400	-21.7%		
mil USD	241	9.3%	447	44	6.8%	200	-3.0%	400	-10.5%		
ヴェノファー 【貧血治療剤】	163	-4.5%	311	26	0.9%	115	-22.1%	230	-26.0%	決算期変更の影響を除外した実質比較では+3億円(+9mil USD)。後発品が上市されなかったこともあり、前年度並の売上を維持。	
mil USD	148	2.7%	272	27	3.5%	115	-7.1%	230	-15.4%		

10-5.第一三共ヨーロッパ GmbH (欧州) <2007年度決算期変更による影響除外後>

1) 主要製品売上高

	(単位: 億円)										備考 (2006年度⇒2007年度の増減)
	2007年度実績					2008年度予想					
	下半年	前同比	年度	対公表 (1月発表)	前同比	上半期	前同比	年度	前同比		
第一三共ヨーロッパ GmbH (DSE)	327	29.8%	639	10	23.6%	370	18.7%	790	23.7%		
mil EUR	203	21.6%	397	-2	12.4%	240	23.7%	510	28.4%		
オルメテック/オルメテックプラス	195	56.7%	354	-2	57.3%	190	19.6%	420	18.6%	決算期変更の影響を除外した実質比較では+129億円(+66mil EURO)。単剤が堅調に推移し、伸長持続。さらに2007年度中に配合剤の上市が主要国で完了。	
mil EUR 【高血圧症治療剤】	122	45.7%	220	-6	43.0%	125	26.4%	270	22.5%		
メハロチン 【高血圧症治療剤】	26	-6.2%	51	5	-15.2%	25	-1.0%	45	-11.6%	決算期変更の影響を除外した実質比較では-9億円(-9mil EURO)。自社販売、提携先への販売とも減少。	
mil EUR	16	-11.8%	32	2	-22.9%	16	1.9%	30	-5.2%		
エビスタ 【骨粗鬆症治療剤】	27	56.7%	43	-	52.4%	75	369.7%	150	251.1%	2006年発売以降、売上が伸長。2008年2月、販売地域を大幅拡大。(8カ国→34カ国)	
mil EUR	17	45.0%	27	-	38.6%	48	383.4%	96	261.2%		

10-6.アジア/中南米 (ASCA)

1) 各社売上高

(単位：億円)

	2007年度実績				2008年度予想			
	下半期	前同比	年度	前同比	上半期	前同比	年度	前同比
ASCA合計	111	-	210	-	110	10.8%	230	9.5%
第一製薬北京 (DPP)	22	36.2%	41	38.7%	21	10.2%	40	-1.5%
上海三共 (SSP)	12	19.3%	23	26.4%	18	56.9%	37	62.6%
韓国第一三共 (DSKR)	17	87.3%	34	96.8%	15	-13.8%	30	-11.9%
第一三共タイ (DSTH)	5	5.1%	8	13.2%	4	4.2%	8	-4.1%
台湾第一三共 (DSTW)	18	-	37	-	20	4.4%	39	5.9%
第一三共ブラジル (DSBR)	25	-	44	-	23	18.4%	50	13.7%
第一三共ベネズエラ (DSVE)	14	-	24	-	10	3.0%	24	2.1%

2) 主要製品売上高

(単位：億円)

	2007年度実績				2008年度予想			
	下半期	前同比	年度	前同比	上半期	前同比	年度	前同比
オルメサルタン	25	1224.0%	42	1266.4%	25	50.0%	60	42.5%
レボフロキサシン	39	11.1%	78	19.5%	40	3.0%	80	2.2%
プラバスタチン	16	218.2%	32	227.5%	15	-6.6%	30	-6.2%

3) 人員の推移

	2007年度実績	
	3月末	営業担当者数 (MR)
第一製薬北京 (DPP)	443	143
上海三共 (SSP)	456	196
香港第一三共 (DSHK)	7	-
韓国第一三共 (DSKR)	89	51
第一三共タイ (DSTH)	46	18
台湾第一三共 (DSTW)	150	65
第一三共ブラジル (DSBR)	266	118
第一三共ベネズエラ (DSVE)	123	70
第一三共インド (DSIN)	5	-

11.連結貸借対照表

〈資産の部〉

(単位：億円)

	2007.3.31		2008.3.31		増減	増減内容
		構成比		構成比		
流動資産	10,158	62.1%	9,265	62.3%	-893	
現金及び預金	1,726		473		-1,253	手元流動性（現預金＋有価証券＋投資有価証券他） 合計 6,655億円（対07年末 -422億円） 【内容】当期利益＋977億円、配当金支払-470億円 自己株式取得-334億円、未払金等支払-623億円等
受取手形及び売掛金	1,972		1,670		-302	
有価証券	4,489		5,268		779	
たな卸資産	1,078		982		-96	
繰延税金資産	634		527		-107	
その他	268		349		81	
貸倒引当金	-7		-3		4	
固定資産	6,210	37.9%	5,614	37.7%	-596	
有形固定資産	2,489	15.2%	2,213	14.9%	-276	子会社の連結除外*による減少
建物及び構築物	1,425		1,368		-57	
機械装置及び運搬具	400		332		-69	
土地	380		331		-49	
建設仮勘定	120		29		-91	
その他	163		152		-10	
無形固定資産	602	3.7%	911	6.1%	309	
のれん	186		154		-32	
その他	416		757		341	骨粗鬆症治療剤エビスタの欧州販売国拡大に伴う権利取得
投資その他の資産	3,120	19.0%	2,490	16.7%	-630	
投資有価証券	2,622		2,160		-462	株式市場の低迷による時価評価差益の減少
長期貸付金	16		13		-3	
前払年金費用	180		80		-100	退職給付制度の変更に伴う減少（退職給付引当金との相殺）
繰延税金資産	89		60		-29	
その他	216		180		-36	
貸倒引当金	-4		-4		1	
資産合計	16,368	100.0%	14,879	100.0%	-1,489	

〈負債及び純資産の部〉

(単位：億円)

	2007.3.31		2008.3.31		増減	増減内容
		構成比		構成比		
負債合計	3,647	22.3%	2,434	16.4%	-1,213	
流動負債	2,815	17.2%	1,945	13.1%	-870	
支払手形及び買掛金	564		464		-100	子会社の連結除外*による減少
短期借入金	86		1		-85	
未払法人税等	276		187		-89	
返品調整引当金	13		8		-6	
売上割戻引当金	25		8		-17	
偶発損失引当金	35		2		-33	
その他	1,817		1,276		-541	転籍一時金支払いに伴う減少（2006年度末未払金計上）
固定負債	832	5.1%	489	3.3%	-343	
長期借入金	15		0		-15	
繰延税金負債	361		267		-94	
退職給付引当金	351		68		-283	退職給付制度の変更に伴う減少（前払年金費用との相殺）
役員退職慰労引当金	10		1		-9	
土壌浄化対策引当金	40		11		-29	
その他	54		142		87	
純資産	12,721	77.7%	12,445	83.6%	-276	
株主資本	11,913	72.8%	12,116	81.4%	203	
資本金	500		500		-	
資本剰余金	1,799		1,799		0	
利益剰余金	9,715		10,251		537	利益剰余金の増加 +536億円 〈変動要因〉 当期利益 +977億円 配当 -470億円
自己株式	-100		-434		-334	自己株式取得 1千万株 332億円
評価・換算差額等	773	4.7%	323	2.2%	-450	
その他有価証券評価差額金	724		485		-238	株式市場の低迷における減少
為替換算調整勘定	50		-163		-212	為替変動（円高）に伴う減少
新株予約権	-	-	3	0.0%	3	
少数株主持分	35	0.2%	4	0.0%	-31	
負債純資産合計	16,368	100.0%	14,879	100.0%	-1,489	

*子会社の連結除外

当社は医薬品事業への集中を図るため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めてきました。

2007年度においては、第一ファインケミカル（株）、埼玉第一製薬（株）、日本乳化剤（株）等が連結除外となりました。

12.連結損益計算書

(単位：億円)

	2006年度		2007年度		増減	増減内容
		構成比 (%)		構成比 (%)		
売上高	9,295	100.0%	8,801	100.0%	-494	グループ外自立化対象としている事業の縮小 -722億円 欧米(06年度:米、07年度:欧)決算期変更に伴う影響額 -174億円 オルメサルタン等主力製品を中心に売上が拡大 +402億円
売上原価	2,652	28.5%	2,346	26.7%	-306	原価率 -1.8P 高原価率である非医薬事業子会社を連結除外*したことによる改善
売上総利益	6,643	71.5%	6,455	73.3%	-188	
販売費及び一般管理費	5,280	56.8%	4,887	55.5%	-393	非医薬事業のグループ外自立化に伴う減少 -229億円
広告宣伝費及び販売促進費	1,007		1,091		84	欧米決算期変更に伴う影響額 -88億円
給料・賞与及び手当	1,041		912		-129	国内要員適正化に伴う減少
退職給付費用	76		2		-73	制度変更に伴う過去勤務債務一括償却による減少 -95億円
研究開発費	1,707		1,635		-72	
その他	1,450		1,247		-203	減価償却費、賃借料等の減少
営業利益	1,363	14.7%	1,568	17.8%	205	
営業外収益	200	2.2%	170	1.9%	-30	
受取利息	77		86		9	
受取配当金	35		33		-3	
金融派生商品収益	26		-		-26	
営業外費用	42	0.5%	48	0.5%	5	
支払利息	3		1		-1	
デリバティブ評価損	-		7		7	当社株価と連動(米国DSIIにおける擬似ストックオプション)
経常利益	1,521	16.4%	1,691	19.2%	170	
特別利益	735	7.9%	161	1.9%	-574	
固定資産売却益	43		66		23	
関係会社株式処分益	593		87		-506	非医薬品事業のグループ外化に伴う子会社売却益の減少
投資有価証券売却益	82		3		-80	(2007年度 第一ファインケミカル、埼玉第一製薬、日本乳化剤等)
特別損失	987	10.6%	183	2.1%	-803	
事業統合関連損失	825		100		-725	希望退職制度に伴う割増退職金等、統合費用の減少
事業再編関連損失	36		22		-14	
訴訟関連損失	-		16		16	
偶発損失引当金繰入額	2		2		0	
税金等調整前当期純利益	1,269	13.7%	1,669	19.0%	399	
法人税、住民税及び事業税等	481	5.2%	691	7.9%	210	法人税率 37.9%→41.4%
少数株主利益	3	0.0%	1	0.0%	-2	(2006年度 米回国子会社において過去の累積損失に基づく減税効果)
当期純利益	785	8.5%	977	11.1%	191	

*子会社の連結除外

当社は医薬品事業への集中を図るため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めてきました。

2007年度においては、第一ファインケミカル(株)、埼玉第一製薬(株)、日本乳化剤(株)等が連結除外となりました。

13.連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	2006年度	2007年度	増減	増減内容
税金等調整前中間（当期）純利益	1,269	1,669	399	
減価償却費	400	387	-13	
関係会社株式処分損益	-593	-87	506	非医薬品事業のグループ外自立化に伴う
退職給付引当金の増減額	-285	-268	17	
前払年金費用の増減額	-7	99	107	
売上債権の増減額	168	76	-92	
たな卸資産の増減額	17	-45	-62	
仕入債務の増減額	33	-3	-36	
未払金及び未払費用の増減額	566	-541	-1,106	要員適正化や機能子会社への転籍に伴う退職金未払等の支払いによる減少
その他	118	-15	-133	
法人税等の支払額	-620	-605	14	
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,064	667	-398	
短期運用資産の増減額	156	-244	-400	米国子会社による運用資産の増加
固定資産の取得・売却等	-315	-432	-117	骨粗鬆症治療剤の欧州販売国拡大に伴う権利取得
投資有価証券の増減額	-233	-16	217	
貸付金の増減額	207	87	-120	
新規連結子会社の株式取得	-272	-	272	06年度：ゼファーマ株式取得
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	910	223	-688	06年度：和光堂、第一化学、三共アグロ等 07年度：第一ファインケミカル、埼玉第一製薬等
その他	0	-111	-112	
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	453	-494	-947	
借入金の増減額	10	-24	-34	
自己株式の取得による支出	-2	-334	-332	07年度：1千万株取得（332億円）
配当金の支払額	-400	-470	-70	実質1株当たり年間10円増配
その他	-16	-1	15	
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	-408	-829	-421	
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	4	-47	-51	
V 現金及び現金同等物の増減額	1,114	-704	-1,818	
VI 現金及び現金同等物の期首残高	4,010	5,132	1,122	
VII 連結範囲の変更による増減額	9	5	-4	
VIII 非連結子会社との合併に伴う増加額	-	10	10	
IX 現金及び現金同等物の期末残高	5,132	4,443	-689	

14. 主要開発パイプラインの状況

第一三共グループ主要開発パイプライン (ステージ別)

領域	主な既存品	Phase1	Phase2
循環器	Mevalotin Benicar/Olmetec Azor Welchol オルメテック カルプロック アーチスト メパロチン クレメジン ハンブ リパロ サンリズム ヘパリコール	DZ-697b(米/欧/日) (抗血小板剤) DB-772d(米/欧) (経口抗Xa剤) CS-8080(米/欧) (動脈硬化性疾患治療薬)	DU-176b(米/欧/日) (経口抗Xa剤) ☆CS-866CMB(日) (オルメサルタンとヒドロクロチアジドの配合剤) CS-747(日) (プラスグレル/抗血小板剤)
糖代謝	ファステック	AJD101(米/欧) (インスリンシグナル経路活性化剤)	CS-011(日) (リボグリタゾン/インスリン抵抗性改善剤) AJD101(日) (インスリンシグナル経路活性化剤)
感染症	Levaquin/Tavanic Banan クラビット	DC-159a(米/欧) (ニューキノロン剤) CS-8958(米/欧) (抗インフルエンザ/ピオタと共同開発)	DU-6859a inj(米) (ニューキノロン剤/注射) CS-023(米/欧/日) (カルバペネム系抗生物質) CS-8958(日) (抗インフルエンザ)
癌	トボテン クレスチン	CS-7017(米) (PPAR γ 作動薬) DE-766(日) (ニモツズマブ/抗EGFR抗体)	CS-1008(米) (抗DR5抗体)
免疫・アレルギー	ジルテック	CS-0777(米/欧) (免疫抑制剤) SUN 13834(米) (キマーゼ阻害剤)	
骨・関節	ロキソニン モービック		
その他	Venofer Evoxac オムニパーク オムニスキャン フエロン ユリーフ		SUN11031(日) (ヒトグレリン/神経性食欲不振症) SUN11031(米/欧) (ヒトグレリン/カヘキシア)

☆効能追加、剤形追加等

2008年2月(RD説明会)以降の主な変更

- 新規追加(アンダーライン) : SUN13834(米/欧)
- 開発中止など : DZ-697b(米/欧/日)[Phase1試験において、設定した基準を満たさなかったことから開発中止]
- : DU-6859a inj(米)[研究開発ポートフォリオの観点から開発中止]
- : CS-023(米/欧/日)[導出検討中]
- : DC-159a(米/欧)[導出検討中]

販売提携、導出候補品など

	Phase1	Phase2
	HGF遺伝子プラスミド(米/欧)(虚血性心疾患/販売提携) SUN E7001(日)(2型糖尿病/導出先探索中) SUN N8075(米/欧)(脳神経保護剤/セクラが開発)	HGF遺伝子プラスミド(米/欧)(末梢性血管疾患/販売提携) SUN 4936h(米/欧)(急性心不全治療剤/導出先探索中) SUN E3001(日)(骨粗鬆症治療剤/導出先探索中) SUN N4057(米/欧)(セロニン1A7ゴニスト) CS-088(米/欧/日)(オルメサルタン/緑内障/参天と共同開発)

* SUN E7001の導出先探索終了

* SUN 4936h, SUN E3001は導出先探索終了

Phase3	承認申請中
<p>★CS-866DM(日) (オルメサルタン トキゾミル/糖尿病性腎症)</p> <p>★CS-866AZ(日) (オルメサルタン トキゾミルとアゼルニジヒンの配合剤)</p> <p>★CS-8635(米) (オルメサルタン トキゾミル、ベシル酸アムロジピン、ヒドロクロチアジドの配合剤)</p>	<p>CS-747(米/欧) (プラスグレレル/抗血小板剤)</p> <p>★CS-8663(欧) (オルメサルタン トキゾミルとベシル酸アムロジピンの配合剤)</p>
<p>CS-011(米/欧) (リボグリタゾン/インスリン抵抗性改善剤)</p>	
<p>★レボフロキサシン注(日) (ニューキノロン剤)</p>	<p>DU-6859a oral(日) (グレースピット/ニューキノロン剤/経口/承認) →</p> <p>★レボフロキサシン高用量(日) (ニューキノロン剤)</p>
<p>AMG162(日) (デノスマブ / 抗RANKL抗体/ P3:癌骨転移、P2:骨粗鬆症)</p> <p>★CS-600G(日) (ロキソプロフェン ナトリウム/ゲル製剤)</p>	<p>★LX-P(日) (ロキソニンテープ/承認/ リードケミカルと共同開発) →</p>
<p>SUN Y7017(日) (メマンチン塩酸塩/ 軽度・中等度および高度アルツハイマー型認知症)</p> <p>KMD-3213(中国) (シロドシン/排尿障害治療剤)</p>	<p>★DL-8234(日) (フエロン効追/G型慢性肝炎/リバビリン併用療法)</p> <p>★SUN 0588r(日) (ビオプテン効追/テトラヒドロビオプテリン反応性高フェニルアラニン血症)</p>

Phase3	承認申請中
<p>SUN A0026(北米)(ファロベネム トキゾミル/ベネム系抗生物質/ レプリダインに導出)</p>	<p>DF-098(日)(アクトヒブ/販売提携/承認) HGF遺伝子プラスミド(日)(コラテジェン/末梢性血管疾患/販売提携) SUN 0588r(欧)(塩酸サプロテリン/高フェニルアラニン血症/バイオマリンに導出)</p>

循環器

【原則P2以降の開発品を掲載しています】

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-747	プラスグレル	経口	抗血小板剤	急性冠症候群	第一三共 宇部興産	米 欧 日	申請中 申請中 P2
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> 血小板表面でP2Y₁₂アデノシン二リン酸(ADP: adenosine diphosphate)受容体を遮断し、血小板の活性化および凝集を抑制する。 米国、欧州はイーライリリーとの共同開発。日本は自社開発。 米国では2007年12月、欧州では2008年2月に承認申請し、また米国において、2008年2月に優先審査品目に指定された。 第3相臨床試験において、プラスグレルは対照薬であるクロピドグレルに対して、重篤な心血管イベント発生リスクを統計学的有意性をもって19%減少させることが明らかとなり、出血の増加が認められたものの、リスクベネフィットを勘案した正味の臨床的有用性が示された(2007年11月開催の米国心臓協会学術大会にて発表)。 第3相臨床試験の結果より、プラスグレルはクロピドグレルと比較してステント血栓症の関連リスクを52%減少させることが確認されていたが、サブ解析から薬剤溶出性ステント治療を受けている群で64%、ベアメタルステント治療を受けている群で48%、それぞれリスクを減少させることが明らかとなった(2008年3月開催の米国心臓病会議のInnovation in Interventionサミットおよび米国心血管造営とインターベンション会議合同学術大会において発表)。 現在申請している適応は、経皮的冠動脈形成術(PCI: Percutaneous Coronary Intervention)を受けている急性冠症候群であり、2008年第2四半期より、新たに血管再建術を予定していない急性冠症候群患者を対象として、薬剤治療試験を実施予定。 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
DU-176b	-	経口	抗Xa剤	心房細動に伴う心原性脳梗塞の予防 静脈血栓症の予防・治療	第一三共	米 欧 日	P2 P2 P2
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> 血液が凝固する過程で重要な役割を果たす血液凝固第Xa因子を阻害する。 ヒトにおける高い経口吸収性が認められた1日1回投与が可能な経口抗Xa剤である。 前臨床試験および臨床試験において、肝機能異常を引き起こす可能性が低いことを確認している。 米国、欧州、日本とも自社開発。 股関節置換術(THR/欧米)、膝関節置換術(TKR/日本)を対象とした後期第2相臨床試験において、血栓症を用量依存的に抑制することが確認されたが、血栓症の抑制効果が高い用量においても、出血の発現率は低かった。 心房細動を対象とした後期第2相臨床試験を米国、欧州、日本において実施中である。2008年第3四半期に第3相臨床試験を開始の予定。 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-8663	オルメサルタン メドキシミル ベシル酸アムロジピン	経口	アンジオテンシンII受容体拮抗剤 カルシウム拮抗剤	高血圧症	第一三共	欧	申請中
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> オルメサルタン メドキシミル(アンジオテンシンII受容体拮抗剤)とベシル酸アムロジピン(カルシウム拮抗剤)の配合剤。 米国:2007年9月承認。商品名:Azor(エイゾール)。 欧州:2007年9月申請。予定商品名:Sevikar(セビカー)。 オルメサルタンライフサイクルマネジメントの一環。 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-866DM	オルメサルタン メドキシミル	経口	アンジオテンシンII受容体拮抗剤	糖尿病性腎症	第一三共	日	P3
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> オルメサルタンライフサイクルマネジメントの一環として糖尿病性腎症への適応拡大。 ORIENT試験において、主要評価項目として腎複合エンドポイント(腎複合評価エンドポイント:血清クレアチニンの2倍化、末期腎不全への移行(Scr₂≥5mg/dL、透析移行、腎移植)、死亡)を評価。 承認申請予定:2009年 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-866AZ	オルメサルタン メドキシミル アゼルニジピン	経口	アンジオテンシンII受容体拮抗剤 カルシウム拮抗剤	高血圧症	第一三共	日	P3
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> オルメサルタン メドキシミル(アンジオテンシンII受容体拮抗剤)とアゼルニジピン(カルシウム拮抗剤)の配合剤。 オルメサルタンライフサイクルマネジメントの一環。 承認申請予定:2009年 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-866CMB	オルメサルタン メドキシミル ヒドロクロロチアジド	経口	アンジオテンシンII受容体拮抗剤 利尿剤	高血圧症	第一三共	日	P2
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> オルメサルタン メドキシミル(アンジオテンシンII受容体拮抗剤)とヒドロクロロチアジド(利尿剤)の配合剤。 オルメサルタンライフサイクルマネジメントの一環。 米国:2003年9月発売。 欧州:2005年6月発売。 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-8635	オルメサルタン メドキシミル ベシル酸アムロジピン ヒドロクロロチアジド	経口	アンジオテンシンII受容体拮抗剤 カルシウム拮抗剤 利尿剤	高血圧症	第一三共	米	P3
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> オルメサルタン メドキシミル(アンジオテンシンII受容体拮抗剤)、ベシル酸アムロジピン(カルシウム拮抗剤)および利尿剤の配合剤。 オルメサルタンライフサイクルマネジメントの一環。 承認申請予定:2009年 							

糖代謝

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-011	リボグリタゾン	経口	インスリン抵抗性改善剤	糖尿病	第一三共	米 欧 日	P3 P3 P2
[備考] ・PPAR γ アゴニスト。 ・第2相臨床試験において、HbA1cの低下、TGの低下、HDL-Cの上昇が認められた。 HbA1c:投与開始時点からのHbA1c低下(プラセボ補正)は、リボグリタゾン2mg、3mg群ともピオグリタゾン45mg群に比較して有意に大きかった。 TG、HDL-C:リボグリタゾン群はピオグリタゾン群45mgに比較してTG低下、HDL-C上昇が大きかった。 ・申請目標:欧/米2011年、日/アジア:2011年							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
AJD-101	-	経口	インスリンシグナル経路活性化剤	糖尿病	味の素	米 欧 日	P1 P1 P2
[備考] ・新規メカニズムの糖尿病治療薬。 ・インスリンのシグナル経路を活性化することにより血糖降下作用を示す薬剤であり、種々の糖尿病モデルにおいて血糖降下作用が認められている。 ・米国、欧州で自社開発。日本では味の素との共同開発。							

感染症

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
DU-6859a	シタフロキサシン水和物	経口	ニューキノロン剤	細菌感染症	第一三共	日	承認
[備考] ・DNAジャイレース、トポイソメラーゼIVの両方を阻害するニューキノロン剤である。 ・2008年1月に承認を取得。							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-8958	-	吸入	ノイラミダザゼ阻害剤	インフルエンザ	第一三共	米 欧 日	P1 P1 P2
[備考] ・長時間作用型のノイラミダザゼ阻害剤であり、1回の投与のみで治療効果および週1回の投与での予防効果が期待できる。 ・米国、欧州でピオタ社と共同開発。日本では自社開発。 ・インフルエンザウイルスの感染部位である肺、気管に直接作用する吸入剤として開発中。							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
レボフロキサシン 高用量	レボフロキサシン	経口	ニューキノロン剤	細菌感染症	第一三共	日	申請中
[備考] ・DNAジャイレース活性およびトポイソメラーゼIV活性の阻害により細菌のDNA合成を阻害する。 ・2007年11月に申請。 ・レボフロキサシンの用法用量変更[1回100mg(重症な場合は200mg)、1日2~3回から、1回500mg、1日1回]。 ・レボフロキサシンライフサイクルマネジメントの一環。							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
レボフロキサシン注	レボフロキサシン	注	ニューキノロン剤	細菌感染症	第一三共	日	P3
[備考] ・DNAジャイレース活性およびトポイソメラーゼIV活性の阻害により細菌のDNA合成を阻害する。 ・レボフロキサシンの注射剤であり、剤形追加。							

癌

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-1008	-	注射	抗DR5抗体	-	第一三共	米	P2
[備考] ・ヒトDeath Receptor 5(DR5)に対するアゴニスティックなマウスモノクローナル抗体であるTRA-8のヒト化抗体。 ・DR5は、ほとんどの正常細胞では発現していないことから腫瘍細胞選択的に作用することが期待される。 ・細胞表面にDR5を発現した癌細胞に対してアポトーシスを誘導する。							

骨・関節

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
AMG162	デノスマブ	注射	抗RANKL抗体	骨粗鬆症 がん骨転移	アムジェン	日 日	P2 P3

[備考]

- 骨吸収の鍵となるメディエーターであるRANKリガンドを特異的にターゲットとする完全ヒト型モノクローナル抗体。
- 2007年7月アムジェンより導入。
- 骨粗鬆症に対して、第3相臨床試験の準備中(自社開発)。
- 癌の骨転移に対して、第3相国際共同治験を実施中。

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
LX-P	ロキソプロフェン ナトリウム	テープ	消炎鎮痛剤	変形性関節症、筋肉痛、 外傷後の腫脹・疼痛の消炎・鎮痛	第一三共	日	承認

[備考]

- 作用機序: プロスタグランジン生合成抑制作用。作用点: シクロオキシゲナーゼ。
- 2008年3月承認取得。
- 製造販売元: リードケミカル株式会社。販売元: 第一三共株式会社。
- 1日1回貼付。
- ロキソニン(ロキソプロフェン ナトリウム)の剤形追加。

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-600G	ロキソプロフェン ナトリウム	ゲル	消炎鎮痛剤	-	第一三共	日	P3

[備考]

- 作用機序: プロスタグランジン生合成抑制作用。作用点: シクロオキシゲナーゼ。
- 自社開発。
- ロキソプロフェンナトリウム水和物含有経皮吸収型軟膏剤(ゲル製剤)
- ロキソニン(ロキソプロフェン ナトリウム)の剤形追加。

その他

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
SUN Y7017	マンチン塩酸塩	経口	NMDA受容体拮抗剤	アルツハイマー型認知症	メルツ	日	P3(高度) P3(軽・中等度)

[備考]

- 既存のアセチルコリンエステラーゼ阻害剤とは異なり、グルタミン酸受容体の1つであるNMDA受容体への拮抗作用を有するアルツハイマー型認知症治療剤である。
- 神経細胞保護作用による認知症症状の進行抑制が期待される。
- アスピオファーマが開発。
- 日本において「高度アルツハイマー型認知症」と「軽度・中等度アルツハイマー型認知症」に対するPhase3を実施中。

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
KMD-3213	シロドシン	経口	α 1A受容体選択的拮抗剤	前立腺肥大に伴う排尿障害改善	キッセイ薬品	中国	P3

[備考]

- 前立腺の α 1A受容体をブロックし尿道の緊張を弛緩させ、尿道抵抗を改善する。既存薬に比べ α 1A受容体に対する選択性が高いため、循環器系への副作用が少なく、また自覚症状の早期改善が期待される。
- 日本では、ユリフの販売名で第一三共、キッセイ薬品が販売。
- 中国で自社開発。

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
SUN 11031	ヒグレリン	注射	-	カヘキシア 神経性食欲不振症	アスピオファーマ	米 欧 日	P2 P2 P2

[備考]

- 現在までに発見されている摂食行動に関係するホルモンの中で、グレリンは唯一の末梢性の内因性摂食亢進因子であり、あわせて強力な成長ホルモン分泌促進作用を有する。
- 米国、欧州、日本ともアスピオファーマが開発。
- 米国、欧州では、カヘキシアを対象に、日本では、神経性食欲不振症を対象に第2相臨床試験を実施中。

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
DL-8234	インターフェロン- β	注射	インターフェロン- β 製剤	C型慢性肝炎(リハビリンとの併用療法)	東レ	日	申請中

[備考]

- 日本において商品名フエロンで販売。
- 2007年9月に効能追加[C型慢性肝炎(リハビリンとの併用療法)]申請。
- 東レとの共同開発。
- α 型に比較して抑うつ等の中枢性副作用、脱毛の発現が少ない天然型のインターフェロン- β 製剤。

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
SUN 0588r	塩酸サブプロテリン	経口	-	テトラヒドロピオプテリン 反応性高フェニルアラニン血症	アスピオファーマ	日	申請中

[備考]

- 日本では、BH4欠乏型の異型高フェニルアラニン血症の治療薬として販売。
- 日本: 2007年3月にテトラヒドロピオプテリン反応性高フェニルアラニン血症(効能追加)申請。
- 米国: バイオマリンに導出、2007年12月上市。
- 欧州: バイオマリンからメルク・セローノにサブライセンス。2007年11月申請。
- 日本ではアスピオファーマが開発。

つくっているのは、希望です。



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社